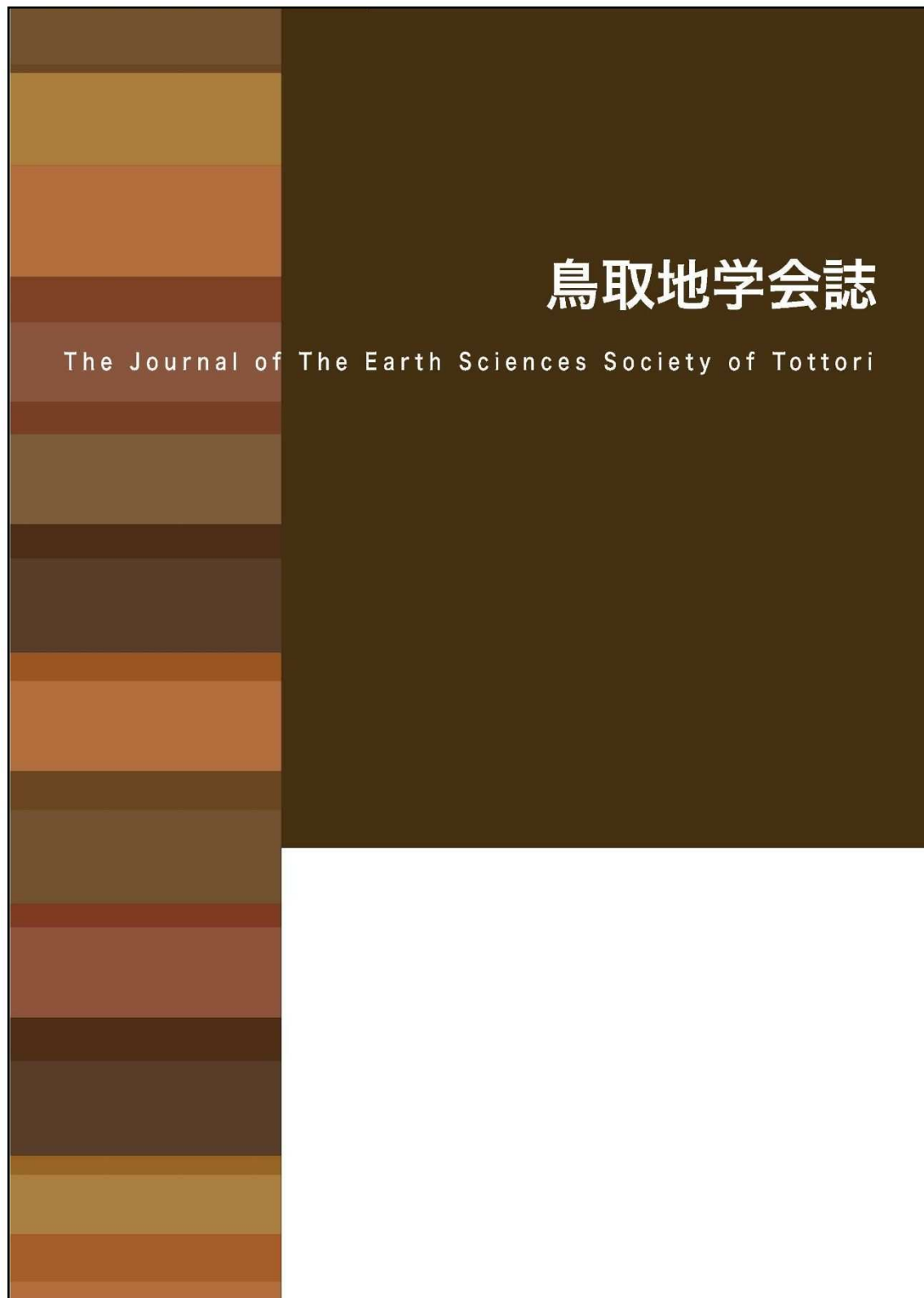


選考 No.	1
アピールポイント	<p>地学というイメージを考慮し地層や地球の歴史を感じられるようなデザインにしました。</p> <p>色はブラウン、ローシエンナ、バートシエンナ、イエローオーカーという地球や大地を感じられる自然な色を使っています。</p> <p>全体的にはシンプルで洗練された永く親しまれるレイアウトを心がけました。</p>



選考 No.	2
アピールポイント	自然界の象徴的な六角形構造を用いたジオメトリックパターンで、鳥取県の自然や地球科学の多様性を鮮やかに表現し、研究の最前線と、自然の豊かさが融合した印象的なグラフィックに仕上げました。



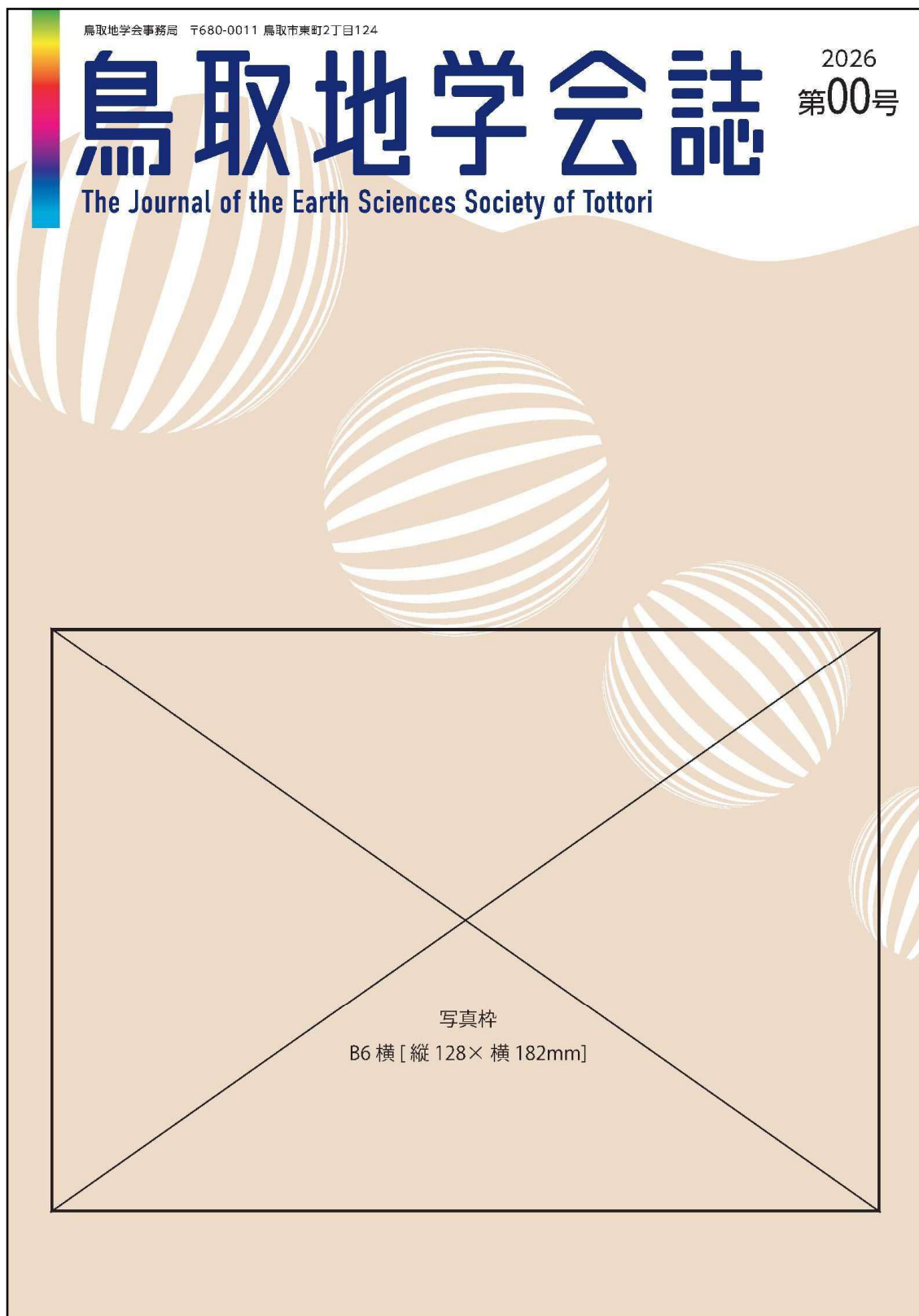
選考 No.	3
アピールポイント	<p>鳥取県の地形をモチーフにしました。 立体的なイラストにすることで、平坦ではなく、奥行きを表現。 また、地学のイメージを想起させる狙いも併せ持っています。 フォントやカラーに関しては、明るすぎず、暗くすぎず、 真面目なイメージを想起させるように設計しています。</p>



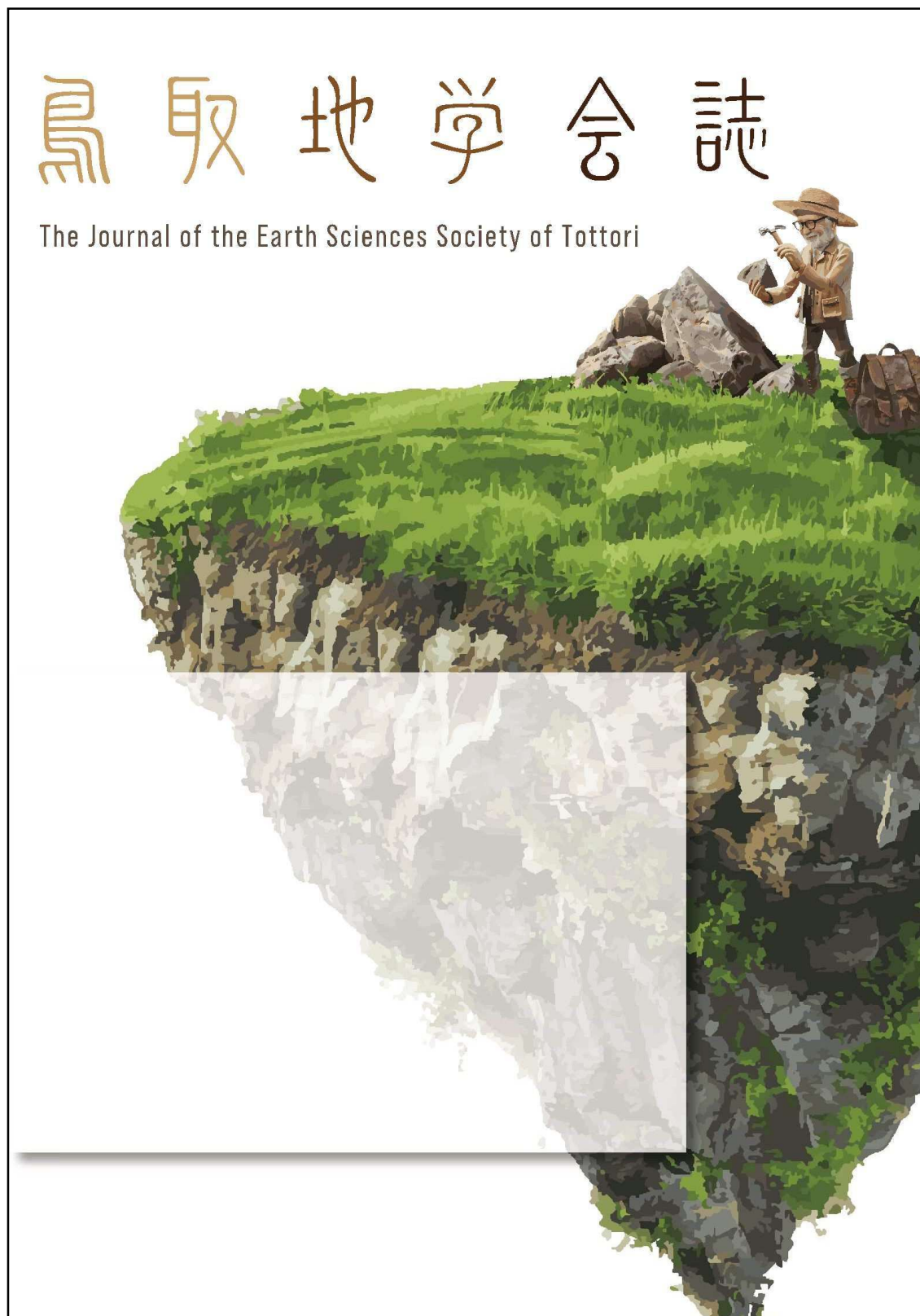
選考 No.	4
アピールポイント	地球・地学をイメージしたグリーンをシンボルカラーに、鮮やかなロゴマークのオレンジラインで学術の探究・開拓・進歩・発見などを表紙に込めたデザインです。



選考 No.	5
アピールポイント	<p>上部に鳥取砂丘をイメージしたシルエットを入れ、その背景に深く潜る地球をイメージした球体で、地球で起こる事象、歴史の探求を表現。タイトルの七色のグラデーションの色でも同じくあらゆる事象を表しています。</p>



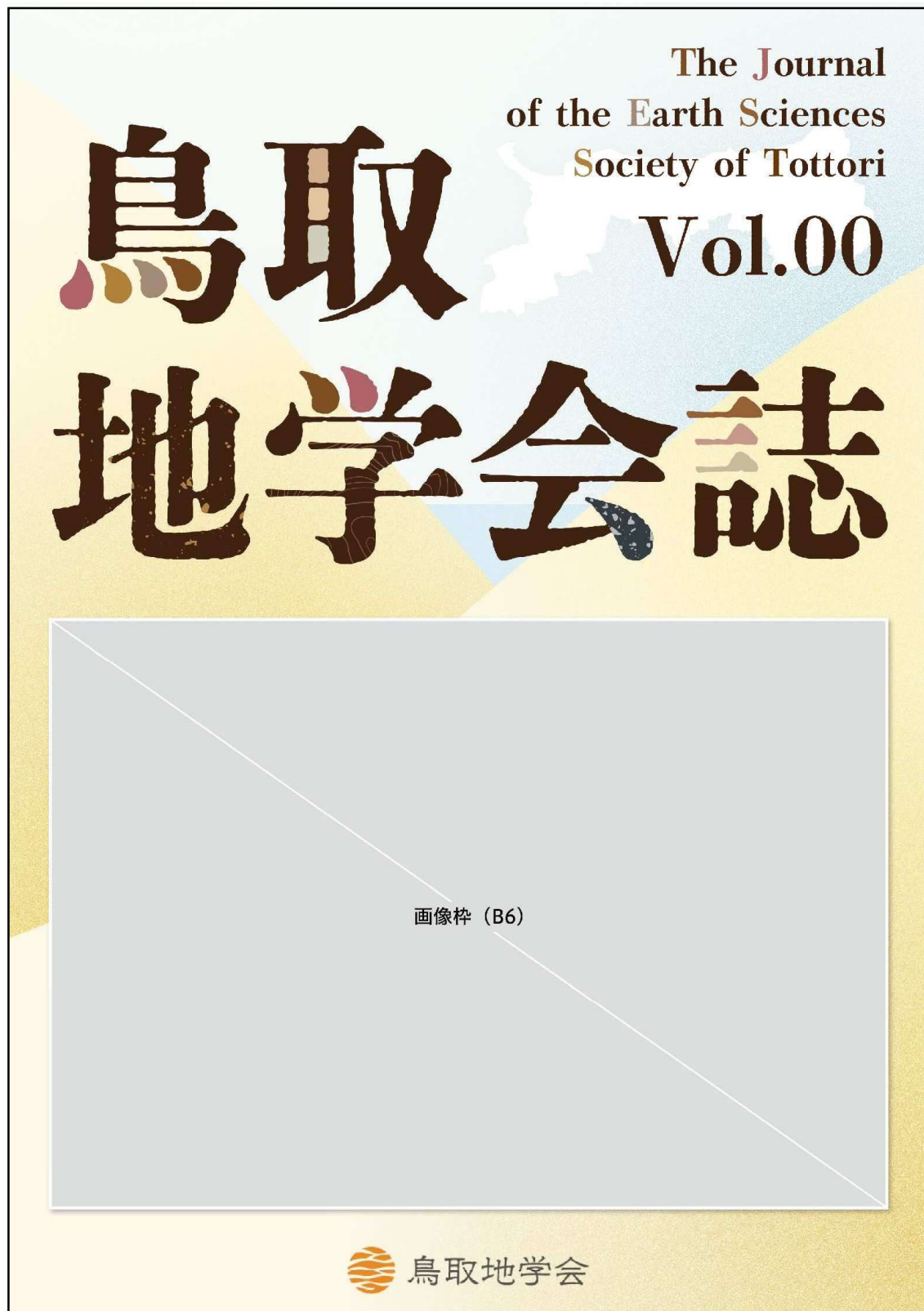
選考 No.	6
アピールポイント	<p>地球を知る、守る。積み重ねてきた研究とその知識は環境問題を含めて社会貢献としての未来への架け橋になるだろうと思います。</p> <p>地球の歴史と進化を探求する姿勢とそこに携わる人々の使命感を親しみやすいイラストにしたいと思いました。</p>



選考 No.	7
アピールポイント	砂丘の風紋と日本海という二つのイメージから曲線による形を同一平面上に重ね、二つの要素を主としてデザインを構成



選考 No.	8
アピールポイント	<p>本デザインは、鳥取砂丘をイメージしたイラストを用い、鳥取らしさと地学らしさを両立させながら、砂の粒感や起伏、遠近感を粒状グラデーションで表現しています。</p> <p>淡い色調と主線を用いない構成により、表紙に配置される写真を妨げず、主役として際立たせることを意図しました。</p> <p>誌名には、地層を思わせる配色や岩肌を連想させるざらついたテクスチャを取り入れ、直感的に地学を連想させる題字にしました。</p> <p>明朝体の重厚さに遊び心を加えることで、専門誌としての品格と、学問へのワクワク感の両立を目指しました。</p>



選考 No.	9
アピールポイント	<p>学会誌ということで、飽きのこない普遍性、品位と格式を重視してデザインしました。表紙には毎回、写真が入るということで、そこ以外に下手にイラストを加えたりすることは、ごちゃごちゃした印象を与えると危惧されましたので、シンプルで表紙としての見やすさ、機能性を重視して検討しました。学会のロゴマークをメインで使用しますが、上記の品位と格式を重視し、金にも見える黄土色とすることをご提案させていただきます。ロゴタイプも既存のものに近い書体を用いてイメージを踏襲しながらもより洗練された印象の書体といたく考えています。</p>



鳥取地学会誌

The Journal of the Earth Sciences Society of Tottori

no.29 / 2025



鳥取地学会

選考 No.	10
アピールポイント	(未記載)

